

## 図書館の世界

中央図書館事務部収書・整理課 井上真紀

2017年の10月に経営学部事務部から中央図書館事務部への人事異動が命じられ、恥ずかしながら図書館を利用する機会の少ない学生生活を送った私には不安しかありませんでした。私自身、図書館を利用するのはレポート作成や、定期試験対策時が大半で普段の学生生活では入館することはありませんでした。そんな私にとって図書館事務部に配属されたことは、転職同様で戸惑いを隠せなかったのと言うまでもありません。皆さんの持つ大学図書館のイメージとは、難しい本（専門書）が並ぶ近寄りがたい場所ではないでしょうか。まだまだ未熟ではありますが、約1年間で経験した図書館の世界をご説明いたします。

近畿大学中央図書館には、多種多様な資料があることをご存じでしょうか。中央図書館では約150万冊の図書と約1万3000種類の雑誌が所蔵されています。

一般的な書籍や雑誌・新聞などの逐次刊行物、学術論文、DVD・CD等の電子媒体を通じて提供される視聴覚資料や新聞の縮刷版、電子ジャーナルと多種多様な資料から形成されています。中には、江戸時代に出版された貴重書を含む約5000冊もの和・洋貴重書が所蔵されています。デジタルアーカイブや、年に1度開催される貴重書展で直接目に触れられる機会を設けております。

これらの資料が皆さんのお手元に渡るまでには、たくさんの職員が携わっているということをご存知でしょうか。図書館業務のイメージは利用者と直接カウンターで接する印象が強いのではないのでしょうか。時には、本に囲まれて、好きな本を読めていいねと言われることもあります。実際はそうではありません。資料を選定し、発注手配、納品物の

検品、システム登録、目録整理、WEB上への公開処理、本の装備、利用者の手元に渡るよう配架。意外に地味な事務処理がメインです。多くの図書館員が携わり図書館に資料が並んでいる。そんな観点で手に取っていただけると少し違った見方で図書館を楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

昨今若者の本離れが深刻な中、全国大学生協連が2月に公表した調査によると、大学生の1日の平均読書時間は23.6分と3年連続で減少。1日の読書時間については大学生の53.1%（文系48.6%・理系54.5%・医歯薬系62.6%）がゼロと回答したとのことで、図書館員としてはなんとも寂しい数字を目の当たりにしました。昔は電車の中でも読書をしている人が多く見受けられましたが、ここ最近は老若男女問わず、スマホに夢中な方が多くなっています。

この状況下、近畿大学は2017年4月にアカデミックシアターを開館しました。中でも2階のDONDENはマンガをきっかけに学生の知的好奇心を刺激し、知の奥へ向かうための「知のどんでん返し」が起こることを狙いとしています。本離れとなった学生がマンガから読書に興味を広げ、隣に置いてある新書や文庫本を手に取り新たな読書習慣を身に着けることを目指しています。私自身もDONDENをよく利用しますが、感想は迷路のような本の街。歩いていると、その場その場で新しい本との出会いがあります。なにより黒板に書かれた文言やポップに興味をそそられ、思わず手にとってしまうこともあります。是非とも一度足を運んでいただき、実際本を手に取り、我々の思いを感じていただければ幸いです。